

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392700013		
法人名	有限会社 ベルヴィ		
事業所名	やすらぎホーム 鴨方		
所在地	岡山県浅口市鴨方町深田439-1		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3392700013&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成30年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家族会を毎年行い、質疑応答、家族間での意見交換を行っている。また今年度からは、市の職員や地区会長も交えて、運営推進会議も同時開催している。 ・同じ楽しみを持って頂くことで他者との会話も増え、お互いこいたわり合う関係が出来ている。 個々の性格や特徴を理解し、生かすことで、スタッフや入居者同士の信頼関係も強くなっている。 ・年間行事や誕生会等、皆様に喜んで頂けるよう工夫し、出来るだけ外出などの機会も持てるようにしている。 ・家族様の面会があった際には必ず近況をお伝えし、要望等もお聞きした上で、記録に残している。 ・何事においても無理強いせず、楽しみながら参加出来るような言葉かけを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多少の利用者の入れ替わりがあっても、このホームの伝統的な作業風景は変わることなく、今日も1階のリビングに入ると男性も女性もそれぞれ自分の持ち場で「シビン作り」に余念がない。賑やかに口もよく動くが、決して手を休める事もなく作業が続く。広告紙をハサミで切る人、段ボール箱にきちんと並べていく人、三つ折りにしていく人、編んで行く人、まるで効率の良い作業工程を見るようだ。これをするに落ち着く人が多いと管理者が語る。今日は1・2階共に雛祭りの行事があり、職員持参の着物を着て、口紅や頬紅をつけながらお化粧し、「昔のべっぴんばあじゃ！」とおおはしゃぎしながら雛壇飾りの前で写真撮影。笑い声が絶えない明るいリビングだった。両管理者は「その人のペースに合わせて、時間を柔軟に、規則に縛られず、笑顔で笑って暮らせる雰囲気を大切にしたい」と意気込みを語り、職員共々に地域に開かれたホーム作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム内に経営理念とホーム・ユニット目標を掲げ、入居者様・家族様・地域の皆様に満足して頂ける様に取り組んでいる。	今年度のホーム目標を「常に感謝の気持ちを持ってケアにあたる」に設定し、他にも各ユニット単位で目標を立てて、職員間で意識付けをし、ゆったりとした環境の中で利用者の笑顔が溢れるホーム作りをしようと日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事(夏祭り・秋祭り・清掃等)に参加して可能限り地域交流を図っている。	地域のボランティアの訪問があり紙芝居や手品等を見て楽しい時間を過ごしたり、敬老会では訪問してくれた保育園児の歌や踊りを見ながら一緒に触れ合っている。地域との交流も定着してきており、様々な行事や地域交流に参加して幅広い活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践に於いて得た知識や技術の支援方法を浅口市の認知症サポートに情報を提供し活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回グループ内の小規模多機能併設サービス付き高齢者向け住宅(ケアビレッジやすらぎ)と合同で、定期的に開催。入居状況や活動を報告し、市職員や民生委員、地区会長、家族様や地域の方々から意見、要望を聞き、改善すべき事柄は速やかに対処している。	運営推進会議は定期的に近くにある同法人の施設と合同で開催している。行政・地域の人・家族等と運営に関する課題を話し合い、活動報告や情報交換をしているが、参加者同士顔馴染みの関係の人も多く、時には雑談になる事もある。	毎回の議事録の作成が出来ていないので、参加者とか意見交換の内容や課題等が今一つ不明である。地域密着型サービスにとって運営推進会議は重要な会議との認識を持ち、毎回記録を残し、職員間で共有して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催や市主催の研修会に参加し、分からないことがあれば電話をしたり、訪問し指導をいただいている。	日頃から市の担当者にはホームの現状についてよく理解をもらっている。市の実地指導の際には運営についての指導をもらったり、何か分からないことがあれば、その都度、担当者に相談している。成年後見人制度を利用の人は4名であり、後見人との連携も密に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は行っていない。また、必要の際は、家族様同意の下、拘束時の記録を残すよう徹底している。	帰宅願望がある人に対しては、職員会議で対応を話し合い、外に出たい時にはピクニック気分職員と出かけたり、周辺を散歩して気分転換をしている。拘束をしないケアを実践し、「身体拘束ゼロハンドブック」を読んで理解を深めるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、状態観察の徹底を行っており、些細なことでも異常を発見した際は、報告・連絡・相談を行い、スタッフ間で情報を共有し注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用される方が居られ、また、今後も利用される方が増えると思われるので研修に参加し、それらをスタッフ会議やカンファレンス時に職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書・リスク説明同意書等を管理者が本人・家族様に説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会に来所された際、家族様より要望があった事を会議等でスタッフに伝え、要望解決を迅速に行っている。又、記録にも残すようにしている。	行事に併せて家族会を開催して親睦と交流を図り、利用者へのサービス向上を目的に、家族にアンケートを実施している。家族の面会時には状況報告をして話し合いの機会を持ち、行事や生活の様子を掲載した「やまぼうし通信」を年4回発行して家族にも送付している。	利用者・家族アンケート用紙には意見・要望欄もあり、サービス向上に活かせる取り組みをしている。本社でアンケートを集計し発表するとの事であるが、どのような意見・要望があり、それがどう運営に反映されているのかを明確にして記録にも残してみよう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2木曜日に代表者と各管理者が集まる全体会議を開催し、各ユニットの活動を報告。また、会議内容を各ホーム会議に下し反映させるようにしている。	風通しの良い環境作りをモットーにして、職員全員と面談し率直な意見や要望を聞き、運営に活かすようにしており職員満足度を重視している。市に申請してキャリアパスを導入し、全体的に職員のレベルアップをし、底上げをしようとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記の全体会議で職場環境や条件整備について忌憚のない意見交換をし職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に課題を提示したり、自己評価等を基に人事評価を行っている。また、研修会に可能な限り参加出来るようにはしているが、人手不足で現状難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同職種はもちろん他職種との連携も深められるように外部研修会等にも参加させてもらっている。ただ、職員不足の為回数は少なく、時間が取りづらい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様から自宅での様子・生活歴を伺い、本人とのコミュニケーションを密にしながら寄り添い距離を縮め、思いを汲み取るよう手助けを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期は状況報告を密にさせていただき、疑問があれば家族様より情報を得ると同時に要望等も伺いながら次のステップに進んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日にもう一度本人・家族様に要望を伺い、確認し、スタッフ間で情報を共有するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に於いて役割を持っていただくことで生き甲斐を感じていただき、日々の会話を大切にし、お互いの距離を縮めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を報告したり、ホーム発行の季刊誌を送らせていただき、写真等でホームでの生活をお知らせしている。また、状態に変化がある場合は随時連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・親戚からの手紙や電話対応の支援。知人・友人などの面会の支援を行っている。	兄妹が同じユニットに入所している人は、疎遠だった関係が入所後修復され今では良い感じだと聞く。自宅にドライブがてら帰り柿を収穫して満足している人や、病院受診は気分転換になると本人が楽しみにしている話もあり、馴染みの関係の継続支援が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが仲介役として寄り添うなどの配慮をし、利用者同士が関わり易い雰囲気を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に入れられ退居されても、時間があれば出来るだけ面会させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に馴染みの物を持参していただき、コミュニケーションや思い出話を聞き出すのに活用させていただいている。常に表情や言動の変化にも気を配り、対応している。	その人の状態や精神的症状によっては他の施設等を検討する事もあるが、本人の「ここにいたい」との固い意思を尊重して支援を継続している事例もある。日々の関わりの中で一人ひとりと会話をすることを心がけて、思いや意向を聞き取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者台帳に生活歴等を記入し、スタッフ全員が情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた点があれば必ず記録に残している。状態に変化が見られた場合等はケアマネージャーや看護師を含めカンファレンスを行い、早急に対策を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特変時はスタッフ会議を開き、ケアマネがケアプランの原案を出し、皆で話し合っている。そして出来たケアプランは本人、家族様に説明し、承認を頂いている。継続したケアを行う場合は、カンファレンス内容を職員間で回覧するよう工夫している。	本人・家族の意向を基に、職員の日頃の気づきや日々の介護記録から課題やニーズを拾い出し、計画作成担当者を中心に職員間で話し合っプランを作成している。状態の変化があれば、その都度カンファレンスをして現状に即した支援内容を検討し、次回のプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を細かく記入するように努めている。また、家族様の要望も記録に記入し今後のケアプラン作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況に応じて通院や送迎を行う。他に、物品の調達等必要な支援に柔軟に対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で市の職員や民生委員より、支援に関する情報や地域の情報をもらい活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の馴染みのある主治医を知り、入居後もその主治医と関係が保たれるよう、受診同行している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を受診してもらっており、付添いは出来る限り家族や後見人に協力してもらっている。病状や必要性に応じてホームの協力医の月2回の訪問診療があり、希望すれば歯科往診もある。認知症専門医への受診は状態を把握している職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックだけでなく、表情や行動、排泄状況を見て、いつもと違うと感じたら、早目に看護師や主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に提出している。入院中は病院のソーシャルワーカーや家族様から情報提供をいただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りをする場合の方針を説明し、同意を得る。その後、重度化したり、看取りが必要な時、もう1度、家族様、主治医と話し合い、方針を決めている。	先日ホームで看取りをした入の場合は、しくなる1時間前までおしゃべりをしていて、昆布茶を飲んで「美味しかった」と言い、夜間に容態が急変したが、眠るような最期だった。もう1名はホームで過ごしたいという本人の強い希望での看取りであり、常に医師と連絡をとり合い、医師から「よく看られましたね」と労いの言葉があった。今後も医療と連携しながら出来る限りの支援をしていく方針である	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応をマニュアル化し、連絡網を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(6月・11月)防火管理者による避難訓練を行う予定にしている。また、委託業者より消火器の使用実践や装置の説明をして頂いている。	災害訓練を近くにある法人の「ケアビレッジやすらぎ」と合同で開催し、訓練終了後は反省会をして課題を話し合い次回の訓練につなげている。担架の備え付けもあり、2階からの避難は外付けの非常階段を使用している。今後は津波による災害対策が課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人にとって一番心地よい声かけに努め、誇りやプライバシーを損ねないように気を配っている。	一年中お気に入りの作業着をいつも着ている人にとっては、それがその人の「おしゃれ」であり、それぞれの個性を尊重しながら、ホームの中で利用者におしゃれをしてもらっていると聞く。脱衣場とトイレが直結しているので失敗時にも羞恥心とプライバシーが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけから表情を読み取り、本人の思いを伝えられることができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調等にあわせてやりたいことを無理なく行えるよう、可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。馴染みの美容院に家族様と行かれる方もおり、柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いにあわせて量をコントロールしたり、苦手な食材は食材業者に伝えて変更している。準備や片付けも、楽しい気持ちで行えるよう、言葉かけにも気を配っている。	食事(副菜)は外部業者に委託しており、ご飯とみそ汁のみホームで作っている。食事形態もそれぞれで摂食障害の人もいるので、食べられるものにアレンジする等、工夫をしている。食後の下膳をする人やお盆拭きの手伝いをしてくれる人もいて、出来る事はしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、必要に応じて栄養補助食品を補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に口腔ケアを行っている。その際、汚れや臭いだけではなく、出血や義歯が合っているかの確認も行っている。不具合があれば、歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況をスタッフが把握し、尿量、回数に合ったパット等を選択している。また、パターンの把握により、本人にとって出来るだけ不快感がないよう努力している。	以前より重度化が進み、排泄が自立の人はいないので、リハビリパンツにパットの組み合わせが多く、タイミングを見計らって声かけをしてトイレ誘導をし、トイレ座位での排泄を基本としている。タオルウォーマーを置いて、排泄後はホットタオルで清潔保持をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便状況を把握し十分な水分補給を行い、又オリゴ糖を活用して、スムーズな排便を促すようにしている。日課として体操も取り入れ、運動不足にならないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の前、本人の体調や希望を確認している。また、拒否が強い方は気が向いたときに入浴が可能ないように出来る限り努めている。	1階の浴室にはミスト浴の機器が設置されており、ボディミストを利用している人もいる。職員とマンツーマン或いは二人介助で一般浴槽に入る人、シャワー浴と足浴の人、終末期の人は清拭で対応する等様々であるが、入浴タイムはコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気候に合わせて、外気浴、日光浴を行ったり、又、体を動かすレクリエーションに参加して頂いた後はティータイムを楽しむ等メリハリを付けている。マイペースに過ごしたい方には無理強いをしないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量は個人ファイルに綴っている。変更時には確認の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に合ったレクリエーションや日常生活の役割を提供している。無理強いをせず、楽しく参加出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事にはなるべく全員で外出できるように努め、また、誕生日等にはスタッフと一緒に買い物や外食できるように支援している。	花見の季節には桜を見に行き、季節毎にコスモスや蓮の花を見学に行く等、自然の景色を楽しんでいる。誕生日には毎年、天満屋ハッピータウンでの外食や買い物に行く人、本が好き人は図書館へ行く等の個別支援にも力を入れている。天気の良い日はホーム周辺の散歩に出かけ気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が買いたい欲しいと言われる時は、家族様に相談し了承をいただき、一緒に外出し、買い物の楽しさを思い出していただいている。また、自分で選べるよう手助けする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりも良く、風も心地よい季節はなるべく窓を開け自然を採り入れるようにしている。また、いろいろな行事の写真をリビングに飾り季節感を感じて頂いている。	シビシ作りはこのホームの伝統であり、各自が分担して熱心に取り組んでおり、リビングがまるで作業場のような雰囲気になっている。一方のユニットでは明るい日差しを浴びながらソファに座り一人で歌を歌っている人や塗り絵をする人等、自由に過ごしている。ホームの周囲は桃畑が広がり眺めが素晴らしい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望に沿った場所が提供できるように机・椅子の配置替えをしたり、模様替えをしたりして、適度な距離が保てるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真や馴染みの物を持ってきていただき居心地の良い居室作りを心掛けている。	仏壇、テレビ、家族の写真、お人形、家具類等を持ち込み、本人が居心地良く暮らせる居室作りをしているが、中にはこだわりが強く、自分の決めた配置通りにしている人もいる。好きな歌手のCDを流し、ポスターに囲まれた居室もありそれぞれの、趣味・趣向を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで、廊下、トイレ、浴室にも要所に手摺を設置している。		